

大島 瑠璃子

OSHIMA, Ruriko

水の風景と癒しについての研究

Study on waterscape and healing

私は水の風景を題材にして制作し、自身が感じた癒しと安らぎを表現している。

この二作品は、山口県美祢市にある鍾乳洞の秋芳洞の名所、百枚皿を題材にしたものである。百枚皿は、石灰華段丘の中腹から流れ出る水が、波紋の形に固まったものである。まるで時が止まっているかのような、不思議な造形は、大自然の神秘的で荘厳な雰囲気醸し出している。

これらの作品を媒体として、画面に表現された水から水の持つ幽玄な自然の魅力と不思議な癒しの情感を得ることが出来れば、と思うのである。



碧河—I
Hekika (blue river) - I
木版画 / 小川和紙
Woodcut on Ogawa Japanese paper
60 × 80 cm



煌河
Kouga (gleaming river)
木版画 / 小川和紙
Woodcut on Ogawa Japanese paper
60 × 80 cm

梶谷 令

KAJITANI, Ryo

展示空間における作品の行方

ハイデッガー的作品存在解釈をてがかりとして

Whereabouts of the work in the exhibition space

As a clue to Heidegger's interpretation of the existence of the work



喪失—1

Loss-1

油性木版画、水彩 / 洋紙(ケント紙)

Oil woodcut and watercolor on paper

60 × 90 cm

版を完成させていく中で、顔は私自身からというより、むしろ私の向こう側から現れて来た。語りかけようとするまでも無く、顔自身から語りかけてきた。私はむしろ問われている。現れてくる顔たちは言うのだ。生きることはどうして何もかも、自分で超えなければならない。自分で抱えて見つめ、自分の両手で確かめなければならないと。私は強くなりたかったの

だ。大きく、人を包み込むような強さやおおいさが欲しかった。いつか顔たちは、もとの人間の姿を失って、顔だけで存在し始めた。まるで巨大な建造物かのように君臨する顔は、いつも変わらない眼差しで人によって生かされる私を見つめていた。



見ることのその先へ

Ahead

油性木版画 / 洋紙(ケント紙) / Oil woodcut on paper

100 × 70 cm

金井塚 睦

KANAIZUKA, Mutsumi

他者によって引き起こされる感情の反応と影響

A reaction and influence of feelings caused by others



ここにいる / I'm here
ウォーターレスリトグラフ / 土佐和紙 / Waterless lithograph on Japanese paper / 105 × 75 cm

私の主となる制作の「人」というのは、日常の関わりの中で様々な感情を持って毎日を過ごしている。

家族や友人はもちろん、全く関わりが無いような他人にも無意識的に感情は向けられている。

私達の肉体の構造にある、目や鼻や口といった顔というのは、同じような形で同じような位置に完成された状態で付いているが、感情というものは、単純に喜怒哀楽だけではなく、憎しみや苛立ちなどの醜さ、愉快や興奮などの解放された部

分など、人との関わりの中で生まれてゆく不安定で不完全な感情を持って毎日を過ごし、他者との関わりの中で、互いに影響を受け、支配されている。その中で、感情を具現化させているモチーフに、人間が誰しも持っている、目、鼻、口そして、髪の毛の動きによって、見えない感情を具現化している。また、私の作品の中で重要な部分になる要素として、様々な髪の毛の表現を中心に、感情と髪を別々に考察し、版画制作の中での髪の毛の表現を追求する。



きれいなものばかりじゃない / It is not only a beautiful thing
ウォーターレスリトグラフ / 土佐和紙 / Waterless lithograph on Japanese paper / 120 × 69.5 cm

上村 美帆

KAMIMURA, Miho

絵画作品における線について

“The line” in painting



I'll never return #

水性木版、転写、エンボス / 和紙

Woodcut and embossment on Japanese paper

98 × 70 cm

自身の線を模索するなかで、サイ・トオンブリの絵画作品における線を研究し、その底なしの深みを身を以て痛感した。作家の描く線は、連綿と続く絵画史のあらゆる事象を引き継ぎながら変容した線であるとともに、彼あるいは彼女の問いかけを体現した線であるといえる。身勝手に引いた線ではない、画面と正面から対峙することで描いた線は、絵画構造を

示し、何も描かれていないと思っていた画面上の余白の隅々まで行き渡る。作家の提示した問いかけは、画面と真摯に向き合ったときにのみ、浮かび上がるとおもう。自身の絵画作品は、未だその域にまで達していない。だからこそ、絵画作品と自身が正面から向き合う定点を真摯に探し続けていきたい。



I'll never return flash back

水性木版画 / 和紙

Woodcut on Japanese paper

98 × 70 cm

霧生 まどか

KIRYU, Madoka

喪失から構築する絵画表現

Painting expressions to construct from loss



奴隷巡り #2
Slave circulation #2
リトグラフ / 洋紙 (いづみ)
Lithograph on paper
100 × 150 cm

私は永遠の時間と移ろいゆく現実の間に囚われた状態を描いている。永遠の時間に対する固執と死の恐怖の間で滞留することで、生が永遠ではないからこそ浮かび上がってくる想いを探っている。私は酷く死を恐れて永遠の時間を望んでいるが、喪失が前提にあるからこそ、あの頃は良かった、戻りたい、ずっとこのままだった、といった想いを懐古し自身の大切な一部になるのだと思う。作品を通じて、現在の悲しみや苦しみの先に見える希望を表現していきたい。

その表現に深みを持たせる要素として、私は刷りを追求した。その内容は刷りの行為に意味を持たせることだ。刷りは自身の感覚とともに描画後の版の中で滞留してしまった時間を現在の時間へと絡め取ることができる。自分から抜け落ちた時間が帰ってくるように私は刷りを重ねた。色味やマチエール、量感が力強く主張してくるとき、原動力にしていた恐怖や不安を超えた自分の絵に出会うのだ。



健やかな寓話
Healthy fable
リトグラフ / 洋紙 (いづみ)
Lithograph on paper
100 × 150 cm

崔 恩知

CHOI, Eun ji

幸福のコスモロジー

Cosmology of happiness



時間の中で
During time
エッチング、アクアチント / 洋紙(いづみ)
Etching, aquatint on paper
60 × 44.5 cm

私が制作するテーマは、自然と宇宙の空間である。人間が生きているこの空間が宇宙である。その中に自然と私たちが存在している。この宇宙という空間の中で生きている人々の人生を風景を通して表現していく。つまり、自然と宇宙という広大で無限な空間の中で、人が生きながら感じる内面のことを画面の上に表すことである。私が表していきたい世界は、空気や水、岩、樹を単に描写するだけではない。目で見えたものに内在する、外見上の現実を越えた意味を伝達

することである。つまり、自然の持つ精神を認識し自由に考え感じることを見出し、描写することである。外面的な意味と内面的な意味を結びつけることで私なりの世界が生まれるようになる。私は、自然風景を見ることによって、内面の世界に入りやすくなる。目の前の自然を描くという自然との交感を通して宇宙が見えてくる。そして、人は自然の一部であることから、自然主体の感情を自然像として表現する。



理想と現実の世界
Ideal and the real world
エッチング、アクアチント / 洋紙(いづみ)
Etching, aquatint on paper
90 × 55 cm

内藤 安純

NAITO, Azumi

私の幸福について

My happy theory



きみとすごした2年間
The 2 years I spent with you
水性木版 / 和紙
Woodcut on Japanese paper
45 × 91 cm

青い世界の真ん中で自由気ままに日々を過ごす。
のんびりとした、あたたかな世界を描き出すこと。
それが私の理想でした。
輝く星々が空の彼方を照らす時、波打つ水面が自分の居場所
を知らせてくれる。
忘れてしまった何時かの自分、日々の中においてきた断片を

彼らは未だ持ち得ています。
今日は楽しかったですか、明日はどうですか。
昨日は楽しかったですか、一昨日はどうでしたか。
毎日をどう過ごすのか、日々を照らすのは自分であるから。
そうした当たり前を、思い出させてくれる。
そんな、あたたかな世界を。



おやつのじかん
I'm hungry
水性木版 / 和紙
Woodcut on Japanese paper
60 × 90 cm

野崎 優里

NOZAKI, Yuri

女性の体について

A woman's body



熟れた果実を屠るとき
Dissatisfied mind
リトグラフ / 洋紙 (紅茶染め)
Lithograph on paper
75 × 105 cm

爽やかさと清潔感の中にフツと沸き上がるエロティシズム。美しく、生命力に溢れるものは往々にしてどこかしらにエロティシズムとグロテスクさを孕んでいる。それらを女性の体から作り出される特徴的で独特な肉感とカタチを使って艶めかしく、そして感情的なものとして表現している。

柔らかで豊かな肉体に絡みつく腸。それは本来体の内側にあるもので、剥き出しになっているべきものではない。けれど体の内側に内包された『感情』を表現するためには同

じく体の内側にある臓物を用いる事がエロティックさとグロテスクさを対比させ、より一層エロティシズムと生命力を際立たせることが出来る。また、体温と肌触り、質感を際立たせるために紙を雲母を混ぜた紅茶で染め、エロティシズムとグロテスクさのどちらか一方に偏らないように意識をしながら水彩絵の具で手彩色を行っている。

鑑賞者のフェチズムをくすぐる様な表現を目指している。



耽る程ゆめうつな日常
Unable to hear the surroundings sound
リトグラフ / 洋紙 (紅茶染め)
Lithograph on paper
100 × 150 cm

濱松 靖葉

HAMAMATSU, Yasuha

何故異世界を描くのか

Why draw a different world ?



水面
The water surface
エッチング / 洋紙 (いづみ)、和紙 (雁皮紙)
Etching on paper
25 × 20 cm, 32 × 20 cm, 38 × 30 cm



私の作品を制作する上でのコンセプトは、身近なモチーフを組み合わせることで異世界のような世界を絵画で表現したいというもので、生き物の生命や生活が感じられるような装飾品・模様・植物・動物・虫などで物語性や挿絵などを意識して異世界的な存在にして描くことを軸にして制作をしている。

物語性のある作品を描くということは何かしらの一場面であるということを想定し、多くのモチーフを具体的に描くことで、観る側に作品の中に描いた世界を出来るだけ現実的に感じて、自由に発想や想像をしてもらいたいと思っている。



装
Clothing
エッチング / 洋紙 (いづみ)、和紙 (雁皮紙)
Etching on paper
63 × 63 cm

淵脇 真理子

FUCHIWAKI, Mariko

虚と実の狭間で

Imaginary reality



銀を飲む - II

Dream of the imaginary - II

エッチング、アクアチント / 洋紙 (いづみ)

Etching, aquatint on paper

43.5 × 79.5 cm

ずっと続く森の中で、私はただひたすら歩いている。遠くに見える白い光を目指して、ひたひたと進む。長い時の中で、森の木は枯れ、硬質な石に変わっている。永遠にさえ感じる長い旅の果てに、白い光が広がる場所にたどり着く。目印は無く、その白はどこまでも続いているように見える。私は一歩

足を踏み出し、またひたひたと進み続ける。

この作品は、実際に自分が夢で見た断片的なイメージを拾い、言葉で整理し、画面におこしたものである。記憶の中の純粋なイメージに近づけるにはどうしたら良いのか。頭を抱えながら楽しんだ。



銀を飲む - I

Dream of the imaginary - I

エッチング / 洋紙 (いづみ)

Etching on paper

40 × 64.5 cm